

再評価結果（平成16年度事業継続箇所）

担当課：北陸地方整備局 都市・住宅整備課

担当課長名：田村 英之

事業名	らいせとうざいせん 来清東西線		事業区分	街路 (主要地方道)	事業主体	新潟県
起終点	自：新潟県南魚沼郡塩沢町大字塩沢字来清 至：新潟県南魚沼郡塩沢町大字塩沢字来清				延長	0.5 km
事業概要	都市計画道路来清東西線は、国道17号から塩沢市街地へ誘導する東西軸の幹線道路として位置付けがされている。またJR上越線により分断されている市街地の一体性の確保および円滑な交通処理確保を図るものである。					
H6年度事業化	S51年度都市計画決定 (H7年度変更)	H9年度用地着手	H10年度工事着手			
全体事業費	約 37億円	事業進捗率	49%	供用済延長	- km	
計画交通量	2,600台/日					
費用便益分析結果	B/C (事業全体) 2.3 (残事業) -	総費用 (残事業)/(事業全体) - / 33億円 事業費： / 33億円 維持管理費： / -億円	総便益 (残事業)/(事業全体) / 75億円 走行時間短縮便益： / 69億円 走行費用減少便益： / 5億円 交通事故減少便益： / 1億円	基準年 平成15年		
事業の効果等	国土・地域（大型車のすれ違い困難が解消される） 個性ある（主要な観光地へのアクセス向上が期待される） 他2項目に該当 関係する地方公共団体等の意見 来清東西線（(主)十日町塩沢線）の沿道には、スキー場が立地しており冬期間における混雑解消等果たす役割は大きい。塩沢町・十日町市の首長で構成される十日町塩沢線改良整備促進期成同盟会により早期整備の要望（平成15年6月4日）を受けている。 事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等 国道17号沿線には複合型ホームセンター等の立地が進み、本路線の果たす役割は年々大きくなってきている。					
事業の進捗状況、残事業の内容等	用地買収は、ほぼ完了しており、残工事はJR交差部のボックス工事およびアプローチ部の工事である。					
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等	本工区内にはJRおよびJHとの立体交差区間があり、施行協議が難航したためである。現在は工事着手をしており、平成18年度には供用予定である。					
施設の構造や工法の変更等	事業採択後、立体交差の形状を橋梁形式からアンダーボックス構造へ変更を行った。					
対応方針	事業継続					
対応方針決定の理由	事業の必要性に関する視点および進捗見込みの視点で再評価し事業継続が必要である。					
事業概要図						

総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。